

道徳学習指導研究委員会

一 テーマ

「考え、議論する道徳」の授業づくり

～子どもたちが道徳的価値を深め合う授業とは～

二 テーマ設定の理由

道徳教育において、子どもたちがさまざまな道徳的な価値に触れることが重要だと考える。教育活動全体において行われるべき道徳教育であるが、その基盤となるのはやはり授業だろう。偏りがちになってしまう道徳的価値を改めて考えたり、興味や関心を広げたりする役割を担っていると言える。我々教師がその道徳の授業を研ぐことで、子どもたちが道徳的な価値を深め、そして広げることにつながるかと考えてこのテーマ設定とした。

三 研究の経過

道徳の授業は特別な教科として各クラスで毎週行われているものである。それは当然のことであるのだが、その一週間に一回の授業に苦手意識を持つ先生は多いと仮説を立てた。そこを糸口に、①道徳の授業に対する現場の先生方へのアンケート実施、②アンケート結果の分析と考察、③道徳における『良い授業』とは何か考え、児童の道徳的価値や本音を引き出す手立ての共有を行うこととした。

③の良い授業とは何か考えるために、授業公開を企画し、授業を参観し合ったり、研究会に参加したりした。また上小特活・道徳研究会の会員となり情報交換を行った。

四 研究の内容

道徳の『授業づくり』に焦点を当て、より良い道徳の授業づくりのための実践・手立ての共有を図った。また、教員向けに行ったアンケートにより、道徳の授業のこういったところに授業づくりの難しさがあるのか考えるきっかけとした。

以下、手立てを共有する。

1 導入場面における、内容項目へ方向づけるための『アンケート』（アナログ・ICT）

授業の導入において、その時の気持ちや行動の振り返りのアンケートを実施する。

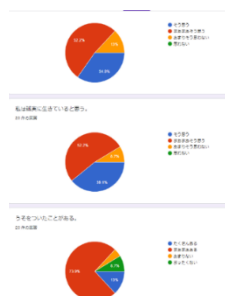
目を瞑ったまま当てはまるものに手を挙げさせたり（アナログ）

タブレットを活用して答えさせたり（ICT）する。

その授業の内容項目に沿ったアンケートを実施し、児童自身について振り返る場を作り話し合いに気持ちを向けられるようにする。

アナログは準備の必要なく、手軽にクラスみんなはどう考えているんだろうかと意識づけることができる。

ICTは即時性があり円グラフで視覚的にわかりやすく一目で互いの意見を把握することができた上、比較的児童の興味も向きやすい利点がある。



1. 選挙に興味がありますか？ *

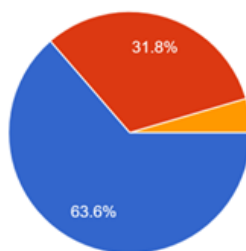
はい

いいえ

選択肢 3

2. 1の理由を書いてください。

回答を入力



2. 1の理由を書いてください。

20件の回答

誰が選ばれるのか見るのが面白いから

日本の未来や今にすぐ関わることだから

将来のため

選挙、政治についてまだわからないから。政治家にあんまり期待していないから

自分が政治に直接関わるのがないので興味ない。

2 展開場面における、考えを「見える化」するための『心のバロメーター』（アナログ・ICT）

主に本時の主発問や、もしも自分だったら、と自己に置き換える場面にて活用する。自分の立場をはっきりとさせたり、自己の微妙な心の揺れ動きを可視化させたりするのに使う。これをもとに、子どもの微妙な心の在り方を表現しやすくすることで、また、教師による切り返しの発問「どうしてそう思う?」「それを聞いてみんなはどう思う?」「どうして変化した?」等によって話し合いがより活発になるようにする。

・アナログ（筒形）



・ICT（ロイロノート）

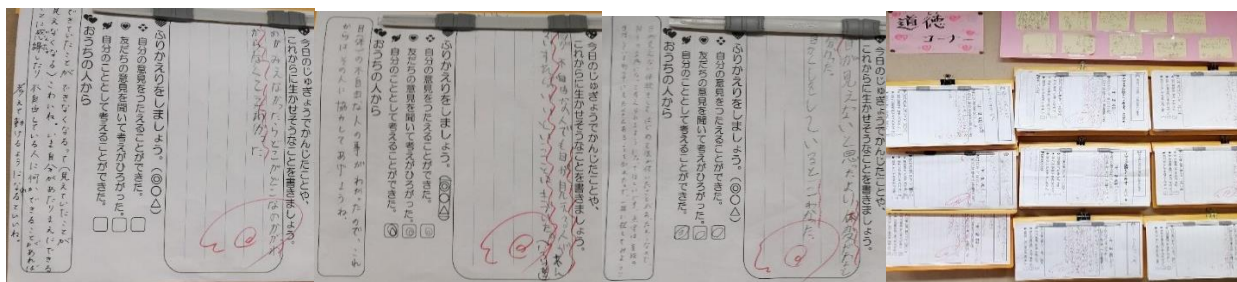


3 振り返り場面における、『ワークシート』『道徳ファイル』『スプレッドシート』

毎回のワークシートの形式を統一することで、児童が本時で考えたことや現時点での納得解を記入することができるようにする。それを一年間で積み重ねていくことで自身の考えの変容や歩みをたどることができるようにする。また、毎回のワークシート作成作業も減り、業務削減にもつながる。

また、月に一度程度（保護者の負担も考え）保護者からのコメントをもらってくることで、より価値を広げたり深めたりできるようにする。保護者と児童との考えの相違もあつたりと立場によって考えることの微妙な違いを知るきっかけとなる。

道徳ファイルは教室壁面に掲示することで児童同士の共有を図る。



また、スプレッドシート（ICT）を活用し、同時編集で他者の考えをヒントに自分の考えをまとめた。なかなか自分の考えを書き込めない生徒もいたが、友だちの考えをリアルタイムで知ることが手助けとなり、自分の考えをまとめることができた。

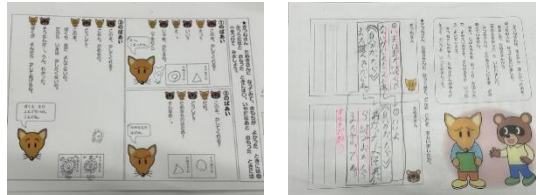
9	気を使わなくていい相手、気軽に相談できる。
10	楽しい、うれしい、相談できる、身近な存在
11	自分が好きな人、仲が良い人
12	何でも相談できる
13	一緒に遊んだり、互いに平等な関係
14	話し合える人、一緒にいて楽しい bro
15	遊ぶときに楽しい、

4 体験活動やゲーム、ロールプレイから考えの充実を図る

①視覚障害者と晴眼者が対話しながら一緒に美術作品やスポーツなどを鑑賞する手法「ソーシャル・ビュー」を体験した。役に分かれて、グループでソーシャル・ビューを実際に体験すると、題材の理解が深まり、より深く考えることができたと感じた。

②友達とペアになり、1人が「私は〇〇が好きです」と紹介し、もう1人が必ず「そうだね!」と返すゲームを行い、自分の好きなもの・ことを相手に受け入れてもらうことの心地よさを体験することができた。

③3つの伝え方(①非主張型、②攻撃的自己主張、③非攻撃的自己主張)のロールプレイをする。それらを聞きどういった印象を持つかを体験することで、その時の気持ちを理解させやすくすることができた。



5 授業づくりのまとめ

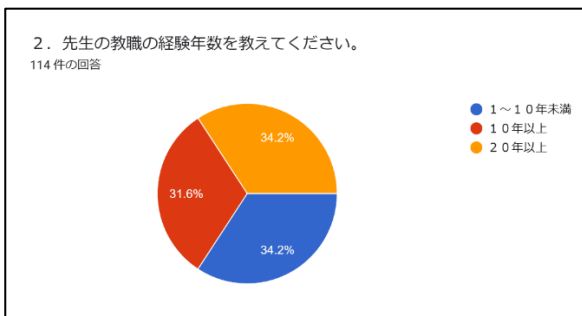
ICTを用いて意見を共有化する道徳の授業は、普段はなかなか話さない友だちの考えも知ることができ、生徒にとって幅広い見方・考え方につながる機会となる良さがある。

反して、話し合いや体験などの活動もそれぞれの良さがあるため、扱う題材や目的によって使い分けていくことがより良い授業づくりへとつながることを改めて感じた。

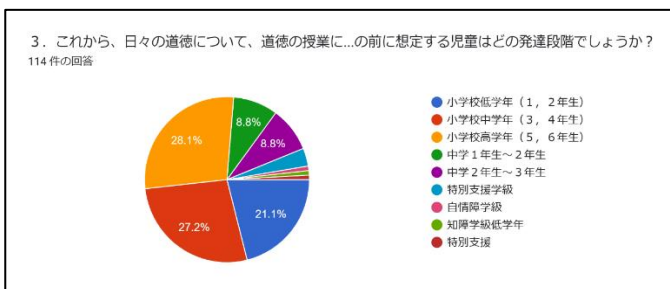
6 アンケート結果のまとめ

※令和7年7月23日Googleフォームを活用し実施

(1) 対象者の属性(経験年数・校種・想定担当学年)について



偶然にもおおよそ3分割された。

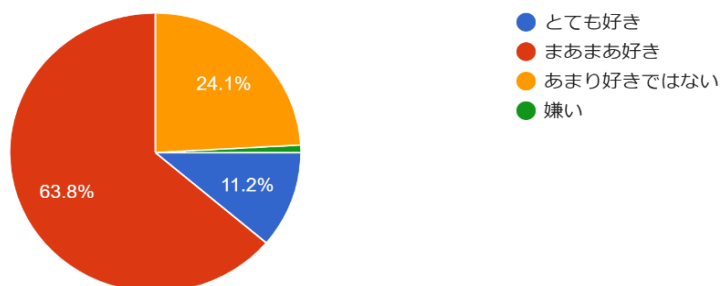


校種は以上の通り。

(2) 教師・児童生徒の道徳の授業に対する姿勢

4. まず、そもそも先生自身が道徳の授業は好きですか？

116 件の回答



全体で見ると、道徳の授業を好き（まあまあ含む）と答える方が75%となった。全体としては道徳に関して前向きに捉えている先生方が多いということが分かった一方で、とても好きは約1割にとどまり、この程度で好きと言っていいかわからないなど謙遜などもあるだろうが、道徳のわかりにくさや難しさなどを含んでいる様子がわかる。

好きな理由として、

「答えがなく、どんな思いや考えでも道徳的価値として受け止めることができるため。」

「普段見られないその子の背景を感じることができるため。」

「子どもの本音が現れ、その違いや共通点に意外な発見があるから。」

「心を育てていくために大切な授業だと考えるから。」

「自分の伝えたい事や学級で今考えさせたい事を扱う事が出来るから。」

「中学年や高学年では、価値が複数ある読み物資料や、価値が拮抗する読み物教材の場合授業が深まるので。」

「国語や算数とは違う、素直な考えや意見を聞くことができるから。」

「子ども達に正しい価値観を教える時間が確保されているから。」

「子どもの変容が期待できるから。」

「『正解』がいくつもあり、生徒たちの多様な考えから学ばせてもらうことも多々あるため。」

「自分自身の生き方を考えたり、他者の気持ちに思いを馳せたりすることは、これからの人生を生きていく上でも大切な学びとなるから。」

「子どもたちがそれまで生きてきた中で得た考えや常識、価値観が揺らいだり、新しい価値観を得たり、更新したりする瞬間に出会えるから。」

「国語、算数などのテストがある教科は苦手な子どもも、道徳の授業では自分の意見を出しやすく、多様な考えに触れることができるから。」

「子どもたちの意見や考えの交流が活発に行われるため。」

「話し合い活動を行いやすいから。」

「どう発問をすると価値項目に近づけるのか、子どもたちの興味関心を惹きつけるには何が必要か、考えることが楽しいから。」

「子どもたちの想像力や発想力が想像を超えてくるから。」

「教科書の内容に加えて自身の体験を踏まえて授業できるから。」

「多様な意見や自分と相容れない意見に出会える場であるから。」

などが挙げられた。

対して、好きではない（あまり好きではない含む）先生方がおおよそ25%という結果となった。

好きではない先生方を年代ごとに分け、どういったところが道徳を忌避する原因になっているのか分析する。

年代ごと（便宜上1～10年目を『若手』、11～20年目を『中堅』、20年目以上を『ベテラン』と呼ぶことにする）に見ると、若手は5分の1、中堅は3分の1、ベテランは4分の1の先生方が道徳を「好きではない」という結果となった。中堅となる先生方に苦手意識が高いという結果となった。

年代別の好きではない理由として、

若手

「いつも「これでいいのかな…？」と思いながら自分自身授業をしている気がする。」

「自分の価値とずれてしまうこともあるため、授業を実践していく中で手応えがない。」

「特別支援だと異学年集団で題材の選定が難しい。」

「ねらいが曖昧になってしまう。」

「正しい答えだけを求められている気がするから。」

「教科書をそのままやっても子どもたちに響いていないことが多いくて悩むことが多い。」

「価値観の押し付けになってしまう時があるため。」

などが挙げられた。

中堅

「教師の期待するような言葉を言っているだけで、揺さぶりをかけても、正直に自分を見つめた考えを引き出せない。」

「そもそも評価することに違和感がある。」

「そもそも話がわかりにくい。」

「結局、説教になってしまう。」

「子どもも自分も結論は読めてしまって、あとはなぞるだけ。」

「オープンエンドの場合はどこかすっきりしない。考えることが大切なのだと思うが……。難しい。結果あまり好きではない。」

「授業が難しいと感じている。自分の指導に自信がない。」

「生徒の話し合いが自然と活発になるような発問や声掛けがうまくできないから。」

「価値観を押し付けているような気がするから。」

「自分の授業がこれでいいのか？と思うから。」

「授業の展開が難しいから。」

「児童の反応が予想できず難しさを感じる。」

「教員・児童生徒互いに「やらされている感」がどこかにあるから。」

などが挙げられた。

ベテラン

「特別の教科という枠組みではあるが、教科化するというスタンスに違和感を感じている。」

「多種多様な価値観が存在する現代社会の中で、何をもってよしとするのか困惑するため。」

「もやもやするしらじらしい内容になってしまうような気がして、なんとなく。」

「なかなか議論が深まるような授業ができないから。」

「教科になったので嫌々やっている。」

「教師側の考えを押し付けてしまっていないかと不安になることがあるから。」

「教材の内容の確認が大変。」

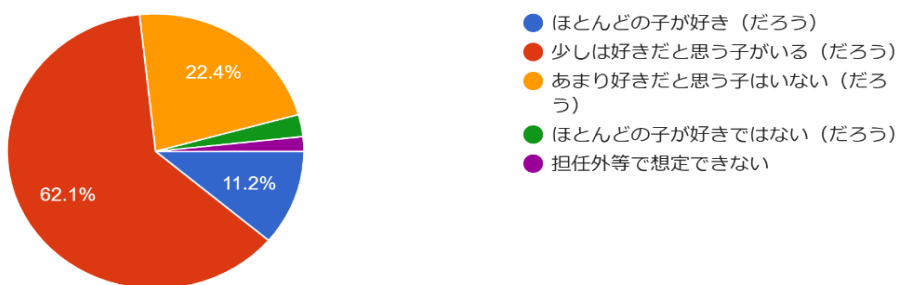
「意識していないと、自分の意図した方向に児童を引っ張ってしまいそうになるため。」

「指導時数がタイトなこともあり、以前より教科書の題材に縛られてしまう感覚が強くなったため。」

などが挙げられた。先生方によって、また年代によってもさまざまな考えや授業に対する姿勢、困難さを見ることができた。

6. 今、先生の（想定した）目の前の子どもたちは道徳が好きだと思いますか？

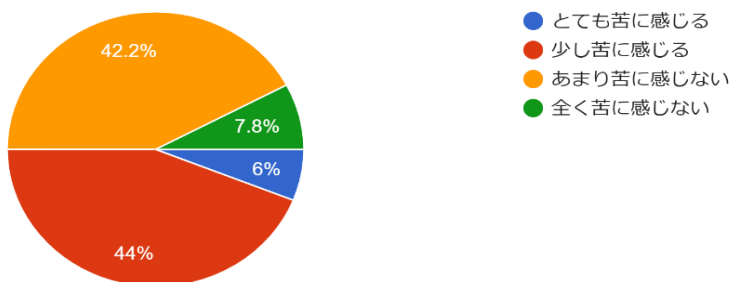
116 件の回答



調査対象の先生方の 4 分の 1 が好きではない傾向に反して、7 割以上の先生方が目の前の児童は道徳が好きだろうと想定していることが分かり、先生方の日々の準備や血のにじむような努力が伺える。

8. 正直、先生自身、一週間に一度の道徳の授業を...ている。（悩んでいた、困っていたり...など）

116 件の回答



半数が苦に感じる（少し含む）ようである。全く感じないという先生方は 1 割以下に止まった。多かった理由としては、どの年代においても圧倒的に「どう教え（考え）ればいいのかわからないから、何を教え（考え）たらいいかわからないから」が多かった。次いで授業準備の大変さ、教科書の扱いの難しさ（題材のタイミング・児童との実態と論じたいこととのギャップ）などが挙げられた。また、行事との兼ね合いで時数確保の難しさや物語の内容把握のための授業準備時間確保の難しさが挙げられた。これらの理由としてではないが、結局は子ども同士の関係や、何でも本音で言える環境など学級経営に委ねられている部分が多いことに道徳授業づくりの困難さが滲み出ていると伺える。

(3) 授業実践や日々の道徳に対する悩みの共有

自由記述欄には、子どもの反応がよかった事例、教科書以外に活用してみた資料、上手くいった実践、子どもが盛り上がった実践について記述してもらった。共有しておく。

- ・教科書だけを使っていると自分の指導力が足りずマンネリ？してしまう感じがしたので、「あけぼの」やネットの教材（5学年時：いじめの教材）を使って、子ども同士の対話を増やすと、いつもより生き生きとした姿があったように感じます。
 - ・さかさま絵本「火の星と水の星」の絵本を使いました。どちらが正義？という問いに、子どもたちは時間をかけて考えていました。
 - ・お話をパワーポイントを使って読み聞かせをすると、集中して聞くことができた。
 - ・挿絵を用いると、読んで理解するだけでなく、場面を想像しながら考えることができているように思う。
 - ・子どもたちが黒板の前に集まって、議論する授業があり、机や椅子から離れて学ぶやり方も良いと思った。
 - ・教科書の項目をメインに使いながら、日々の子どもの生活や時事的な教材を取り入れて、時にオリジナルメニューを作成して授業をしている。ただ、所見に記入するのは教科書の内容から選んでいる。
 - ・役割演技（ロールプレイ）や動画教材は教科書より子どもたちの反応も良かったので進めやすかったです
 - ・頭で考えることよりも、レクなどを通して体を動かしながら信頼関係を築いていく活動の方が、盛り上がった。
 - ・写真やイラストなど視覚支援があるとイメージしやすかった。NHK Schoolの哲学の動画を使用したこともあった。
 - ・グループエンカウンターをつかった授業は意欲的に参加できていた。
 - ・中学三年生に道徳の授業を行った際、「礼儀」について柔道の大会の大野将平選手の考えをもとに礼儀の大切さを取扱う授業で、導入に使った資料がすごく生徒の印象に残り、ほとんどの生徒が意欲的にやってくれたことがあります。私自身柔道をやっていたので知識が豊富だったのもありますが、当時話題になったパリオリンピックの出来事を題材に導入を考えました。内容としては、パリオリンピック男子60kg級の永山竜樹選手が誤審によって相手選手に締め落とされ、準々決勝敗退ということになり、審判・相手選手・永山選手のSNSでの炎上を取り上げました。審判は試合を止めたのにも関わらず絞め技を続ける選手に注意をしなかった。相手選手は、試合を止められたのにも関わらず絞め技を継続した。永山選手は誤審に納得がいかず試合場で抗議をした。この三者の誰が炎上したのかという問いに、多くの生徒が興味を持って授業に参加していました。答えは三者ともに炎上したというものです。生徒の中からは、なんで永山選手が炎上したの！？と反応があり、それは日本人の武道に対する認識や、「礼儀」がしっかりしている柔道という競技性が関わってくることに起因していることを認識させ、「礼儀」とはといるところに話を収束させて題材を触れました。生徒たちの答えの中には、私もハッとさせられるものもあり、チアリーディングをやっている子に関しては、「チアの世界では、必ず笑顔で挨拶をしなきゃならないというルールがあるんです。なぜならチアはみんなを応援する・元気にする立場がだから笑顔で挨拶するんです！」と教えてくれました。柔道をやっていた手前、礼儀には詳しいと思っていましたが、この話を聞いて、礼儀にもいろいろな考えがあって、それを大切にしている人たちもいるのだと知ることができて、この授業をやってよかったなあと思いました。
 - ・個別で道徳の授業をしているのですが、教材の話が長いものが多く、題材が難しいと感じています。また、せつかくの道徳の授業、原級で様々な意見を聞いて、みんなと考える喜びを感じてもらいたい、と思うのですが。
 - ・研究授業を行いました。問い返しを事前に計画しておくことで、子どもたちがより考えるきっかけになったと思いました。
- 教科書だけで進めるよりは、何かをつくる活動や映像資料などがあつたときの方が生徒が反応がよいことが多い。
- ・ICTを使うと意見の集約がしやすいし、どの子の意見も俯瞰できる。
 - ・学年担任制であったことを生かし、学年職員で全クラスをまわって道徳の授業をローテーションで行っているが、いろ

いろいろな先生の授業を見ることができたり、複数の目で生徒を見ることができたりと、良い面があると感じている。子どもたちもいつも担任の授業だと慣れが出るので、いろいろな先生が来ることを楽しみにしている。

・道徳は、自分の経験談やそのとき感じたこと・考えを話すことを大事にして授業を行っている。「先生は～と思うけれど、みんなはどう?」「昔は～と思っていたけれど今は～思う。みんなならどうする?」と問いかけている。答えが一つではないこと、多様な意見があっという間を実感してほしいと思う。

・「心のバロメータ」は、子どもたちの考えを揺さぶる有効な手立てだと実践を通して再認識することができました。

・立場が明確にすると話し合いが盛り上がる感じがします。教師があえて価値観を揺さぶるような場面設定を投げかけてみると、葛藤が生まれて面白いです

・3時間くらいをまとめた単元を進める道徳が子どもにとってもしっかり考えられる道徳になったように思います。

・学年で話し合いながら道徳を進めている。互いの持つ資料や子供の実態を話しながら道徳の準備をしている。

・木とリスや、カムオンのようなゲームを楽しみ、登場人物になりきって考える子ども達の生き生きとした姿が、たくさん見られます。ただ、なかなかそれが行動に結びつかないと思うことがあります。

・1時間完結ではなく、単元同士をくくる（似てるもの、考えを深めていく中で繋がると思えるものなど）形で授業を深めたら、どんどん考えが広がり、深まっていった。

・NHKforSchoolの昔話法廷は自分の考えを伝え合うのに効果的だった。

・2年時の『「桃太郎」の鬼退治』という単元では、小さい頃から知っていたお話に対して、見方を変えると違う結末があるのかも!とクラスでも意見交換が大いに盛り上がり、YouTubeでの動画を見ることでその印象がさらに残ったようです。(視覚的な支援も大事だなと感じた瞬間でした。)1年間を通して、「この単元が一番印象に残っている。」と振り返る生徒も多数いました。3年の今を迎えて、文化祭の生徒会企画は『桃太郎』を題材にしようと考えてくれたのも、昨年度の道徳のイメージが大きかったようです。中学3年生の彼らが考える『全員が「めでたし、めでたし」になる物語』の結末がどのようなものになるのか、9月がとても楽しみです。

・低学年なので、ロールプレイや友達との話し合い活動のほうが楽しんでやっています。

・動画教材は、場面設定や状況設定が読み物資料に比べてすぐに把握されやすい印象がある。同じ土俵に立たせるのを短い時間で行えるので、自分の考えをまとめたり、意見を出し合ったりするのがスムーズにできるように思われる。

・クラスの課題について話し合った時は、真剣に考えていて日常に生きる内容になった

・NHKのM&Iやメディアリテラシー関係の番組は子どもにとって分かりやすく、考えさせやすいものだった。

ICTを活用することで、子どもたちの考えを共有することがしやすくなり、多様な価値観に触れることができるようになってきているのはよいと感じている。

・心の揺れを、心のものさしで表すことで、自己変化や友の考えがわかり、ものの捉え方が豊かになる

・教科書ができたので週に1時間きちんと行うようになりました。また、扱った題材は教室に掲示して常に目に触れるようにしています。

・実態に合わせた自作資料での授業をしたとき、子ども達が真剣に向き合っているつぶやきや発言が聞かれてよかった。

・全員発言を心がけている。聞いている時間が長くなり、間延びしてしまうという課題はあるが……。ロイロノートを用いる方法もあるが、タブレットに夢中になり、うまくいかない。

・中学年 絵本「まっくろネリノ」 なかよし月間に読み聞かせ、その後、感想を発表し合った。1羽だけ真っ黒な末っ子の鳥のネリノが、カラフルな色の兄姉達に冷たくされたのにも関わらず、兄姉達が人間に捕まったとき、真っ黒な色を生かして救出できた。兄姉達もネリノに感謝し、みんな仲良く暮らした。という話は、好きで黒く生まれたわけでもないのに冷たくされる理不尽さ、冷たくされても兄姉達を助けるネリノの優しさ、冷たくされた原因の黒を上手に使い救出できたこと、その後、兄弟なかよく暮らせた等の大切なことは、子ども達が気づき、私が気づいてほしいことが全部出され

た。さし絵からも、「最後の絵は、ネリノが真ん中で良かった。」と発見できた。教科書の教材文も大切に扱いたい。そして短時間で絵本のようにその他のわかりやすい文を読むことで、大切な価値観をみんなで共有していくこともよいかなと感じています。

- ・光村の教科書の題材や切り口はとても参考になります。教科書選定は大切ですね。
- ・一対一で取り組むことが多いので、その場で「どれにする？」などと相談しながら進めることもあります。読んだあと、感想を聞くこともありますし、一部分を取り出して「どう思う？」などと尋ねることもあります。とにかく、敬遠されないように、道徳の学習に取り組んでいます。
- ・指導者側が、あまり先導(誘導)しすぎないような問いかけ考えさせる展開の時間になればと思う
- ・三年の最後の授業で扱った今道友信氏の「出会いの輝き」に於いて、人が他者に送る事が出来る最高の贈り物は「思い出」である、と言う話を学級全体で考える授業は、生徒達個々で挙げた悔しかった経験や、その時は無意味だと思っていた活動が、卒業する時には全て大切な思い出になっていると言う事を共有する事が出来て、忘れられない授業になりました。菊池寛の「恩讐の彼方に」は、個人的には最も扱いたい作品でしたが、世間一般ではテーマとして否定的な評価も多い事も授業後に生徒達から伝えられ、難しさを感じた事も有りました。
- ・一つの学級に様々なお子さんがいるため、この子にはヒットした題材や授業方法でも、他の子にはそうではなかったということがあります。
- ・子ども達が場面を想定したりイメージしやすくしたりするための資料の掲示の方法(イラスト、絵、写真、動画など)をしっかりと吟味し準備すると子どもたちが自分の考えを持ちやすくなると感じる。またロールプレイや気持ちの天秤などを取り入れるなど、道徳的な価値に迫るための様々な工夫をしていくと子どもたちは授業にのめり込んでいくことが多いと感じる。

また、自由記述の中からも日々の実践で困ることや、日々の悩み、よりよくするためにどうしていくべきか考えがたくさん挙げられたので共有しておく。

- ・授業の幅を知りたいなあと思っています。いつもワンパターンになっている気がして、どのようなパターンがあるのか知りたいです。
- ・道徳の指導書に発問や板書計画がありますが、なかなかその通りにはいかないことが多いと感じます。
- ・文化伝統の授業が苦手です
- ・教科書の内容だと子どもが積極的に参加する授業をつくるのが難しい。
- ・教科書に採択されている文章が、非常に安直(メッセージや道徳的価値を露骨に書き表してしまっている)だと感じる時があります。それから、インタビュー的なものや漫画など、読み物ではない題材をどのように扱うか、知りたいです。
- ・もっと「哲学」や人間の深いところに入っていきような話を子ども達とできたらいいな、と思っています。
- ・うまくいった実践や、教科書の題材で活用できそうな動画等について共有し合う場などがあると良い。全中学校で同じ教科書を使っているのだから、やり方等を共有し合えば、もう少し効率よく授業の準備等に活用できると思う。
- ・「こう答えるのが正解なんでしょ」と考えることを早い段階でやめてしまう子がいます。そういった子も「考えるのが楽しい」「みんなの意見を聞いて新たな視点に気づけた」など、道徳の時間が有意義になるような授業にするための手立てを研究していきたいです。
- ・日々の子どもの姿の中に道徳の材料はいっぱい転がっているのに、本当はそういう姿を拾って道徳が出来たらいいのにって思うのに。なかなかうまくいきません。
- ・道徳は教材研究に時間を要する教科であり、奥深い学習ができるものであると感じている。中学生たちの意見に耳を傾けながら、授業を進めるのは難しいと感じたこともあった。
- ・担任の立場として、「今日の道徳はうまくいかなかったかな…」と振り返ることがあっても、何人かの生徒には、その

日の道徳の話題が深く浸透していたりもします。(道徳のプリント以外で、考えを生活ノートに書いてくれる生徒たちもおり、「こんな考え方もあるんだな。」といつも学ばせてもらうのは、こちらの方です。)

「道徳の授業がうまくいった！」と思うことはなかなか無いですが、少しずつ・少しずつ、生徒たちの間に道徳心が増えていったら良いなと思いつつ、また2学期の授業を考えようと思います。

- ・その時々クラスの实態に合わせた教材を選びながら取り上げている。
 - ・なんでだろう…となかなか思いを書けない、伝えられない児童への声掛けが誘導尋問になってしまいそうだったり、私の思いの押しつけになっていそうだったりして、難しいと感じる。
 - ・通知票や要録への記述に苦慮しています。
 - ・もっと、「あけぼの」や「わたしたちの道」を使う時間が欲しいが、なかなか扱えずにいて残念に思っている。
 - ・1時間で教科書にのっているようなロールプレイや「やってみよう」のような内容まで十分に扱えず難しいと感じる。
- また、パターン化しているところもありまだまだ工夫の余地があると考えている。
- ・教科書の資料を読み、それを自分事として考えていけるような問い返しや、綺麗ごとで終わらないように様々な意見が出てくるような発問等、日々難しいなあと感じながら授業しています。
 - ・対話を大切にしたい授業が理想です。部落差別も先生方とともに研修で学んだことを活かしていきたいと思っています。
- 楽しく盛り上がる授業をしたいが、

以上、アンケート結果である。

これらのことから、道徳の授業の面白さを感じて授業をしてくださる先生方が多く、子どもたちも先生方の日々の声かけによって道徳の時間を面白いと感じてくれていると考えられる。反面、道徳の性質とあっていいのかもしれないが、「答えがない」というところに授業づくりの難しさを感じたり、「これでいいのかわからない」という授業の答え(授業の出来に正解はないかもしれないが…)がわからなかったりする先生方が多く見られることが分かった。

五 研究のまとめと課題

本年より教育課程の研究協議会が行われなかったため、活動が手探りな部分があった。しかし、委員の助けにより、本年のテーマである「考え、議論する道徳」の授業づくり～子どもたちが道徳的価値を深め合う授業とは～という形に落ち着いた。

本年は上小管内でのアンケートを実施することができ、課題を把握する年となった。100件を超えるアンケートの返答をいただくことができ、先生方の道徳への関心は高く、また日々悩まれる姿がひしひしと伝わってきた。本年の課題把握を踏まえ来年度以降はより一層の道徳教育の充実を図る実践を研究できればと思う。

改めて、道徳における「よい授業」ってどんなものだろうか考える。先述してきたような各校の様々な手法や手立てはあくまで手段の一つでしかないのかもしれない。ただ、これをきっかけに、我々教師が、様々な手段や手立てを精査し、実際に授業実践を重ねていくことで、よりよい道徳の授業となっていくのではと思う。よりよい授業を行うことが子どもたちへの道徳性を身に着ける一番の道なのではないかと考えている。

道徳はきれいごとを教え込むことではないだろう。子どもたちが深く考え、議論を重ね価値に近づくことが大切だ。そのために我々が授業で考え、議論する場を意図的に設定することでそれぞれの子どもたちが社会で生きる道徳性を獲得できるのだと考える。多様化が加速度的に進む社会において、学校で身に着けた道徳性こそが未来の子どもたちの道を拓くことだろう。